

K-713

天童市埋蔵文化財調査報告書第20集

# 天童市西沼田遺跡

— 第 I 次 発 掘 調 査 概 報 —

平成 10 年 3 月

天童市教育委員会





# 天童市西沼田遺跡

— 第 I 次 発 掘 調 査 概 報 —

平 成 10 年 3 月

天 童 市 教 育 委 員 会



## 序

国指定史跡西沼田遺跡は、古墳時代後期の集落跡を現代に伝える、学術的にも、文化財としてもきわめて貴重かつ重要な遺跡であります。

遺跡は天童市の西部、蔵増地区大字矢野目に所在します。昭和60年、西沼田遺跡周辺で、山形県三郷堰圃場整備事業が実施されることになったため、県教育委員会が主体となって緊急発掘調査を実施しました。調査は、半年以上にわたって行われ、現在史跡となっている範囲の中心部、約900m<sup>2</sup>の発掘箇所からは、土器、石器、植物遺存体、木製農耕具、掘立柱建物跡等、大変多くの遺構・遺物が出土・検出されました。

これらの出土遺構・遺物は、考古学、建築学、古代史等、様々な学問領域にわたって大変貴重なものであり、東北古代における民衆の生活を知るうえで重要なものであることが判明しました。

天童市教育委員会では、ことの重要性に鑑み、史跡指定、公有化事業を進めるとともに、有識者等によって構成される「西沼田遺跡整備検討委員会」の指導を受けながら、史跡整備の基本計画策定等を進めていまいりました。

発掘調査から10余年を経て、当時確認された遺構・遺物、特に木製品、建築部材の保存状態の確認、遺跡範囲の詳細な把握等を目的として調査を再開することとなりました。

今回の発掘調査では、前回の調査にも劣らぬような資料が多く出土しました。特に、精巧に加工の施された建築部材、ほぞ穴のあけられた柱の土台木等の出土は大きな成果がありました。これらの成果をもとに、今後も史跡の保存・整備に向けてさらなる調査・研究を進めて参りたいと思います。

最後に、発掘調査のためにご協力くださいました三郷堰土地改良区、発掘作業員の皆様に深く感謝いたします。また、調査を御指導いただいた文化庁、西沼田遺跡整備検討委員会、東北芸術工科大学仲野浩先生、東京国立文化財研究所宮本長二郎先生、山形大学阿子島 功先生、山形県教育府文化財課、山形県埋蔵文化財センターの諸先生方ならびに、関係各機関・各位に厚くお礼申し上げます。

本書を今後の調査研究あるいは保存整備・活用の一助となるように活用いただければ幸いと存じます。

今後とも適切な御助言、御指導を賜りますようお願い申しあげ、ご挨拶といたします。

平成10年3月

天童市教育委員会

教育長 武田良一

## 例　　言

1 本書は、国史跡・西沼田遺跡の整備に係る発掘調査の概報である。

2 発掘調査は天童市教育委員会が実施した。

3 調査要項は下記のとおりである。

遺跡名　　西沼田遺跡

所在地　　山形県天童市大字矢野目3295番地

遺跡番号　天童市遺跡番号114番

調査期間

発掘調査　平成9年9月12日～平成9年12月1日

整理作業　平成9年12月2日～平成10年3月31日

調査担当

調査員　押野一貴（社会教育課主事）

事務局　高橋誠（社会教育課長）

長瀬一男（社会教育課主幹）

押野一貴（社会教育課主事）

発掘作業　山沢謙、林愛子、大沼モト子、林ミヨ、小笠原たけよ、  
林喜代子、斉藤一子、佐藤ツネ、佐藤保子、佐藤こう、  
大林あさ子、植松礼三、熊沢平作、武田忠作、後藤庄二、  
富樫八郎兵衛、富樫みん、水戸秀雄、水戸きみ、花輪静枝、  
森川真由美、国井美穂

整理作業　山沢謙、高橋真琴、森川真由美、国井美穂、佐々木恵美、  
小林聖子、佐藤和美、小野由紀子

4 本書の執筆は押野一貴が行った。

5 発掘調査から本書の刊行に至るまで、文化庁記念物課、山形県教育庁文化財課、（財）山形県埋蔵文化財センター、三郷堰土地改良区、東北芸術工科大学仲野浩先生、東京国立文化財研究所宮本長二郎先生、山形大学阿子島功先生、川崎利夫氏、村山正市氏、山沢謙氏の諸機関・諸氏から御指導・御協力をいただいた。記して深謝の意を表する。

6 本調査で出土した資料は、天童市教育委員会で一括保管する。

## 本文目次

第Ⅰ章 序章 .....	1
第1節 調査に至る経緯 .....	1
第2節 遺跡の立地と環境 .....	1
第3節 周辺遺跡と歴史的環境 .....	2
第Ⅱ章 調査の概要 .....	5
第1節 調査の方法と経過 .....	5
第2節 基本層序 .....	6
第Ⅲ章 遺構と遺物 .....	9
第1節 木杭群 .....	9
(1) 1号木杭群 .....	9
(2) 2号木杭群 .....	9
第2節 建築部材等 .....	16
第3節 遺物集中区 .....	17
第Ⅳ章 まとめ .....	21
第1節 遺構について .....	21
第2節 遺物について .....	21
報告書抄録	

## 挿図目次

第1図 周辺の遺跡 .....	3
第2図 発掘区設定図 .....	5
第3図 グリッド設定 .....	6
第4図 トレンチ北壁土層断面図(1) .....	7
第5図 トレンチ北壁土層断面図(2) .....	7
第6図 トレンチ北壁土層断面図(3) .....	8

第7図	トレンチ東壁土層断面図	8
第8図	遺構配地图	11
第9図	遺構実測図(1)	13
第10図	遺構実測図(2)	14
第11図	遺構実測図(3)	15
第12図	西沼田遺跡出土遺物(1)	16
第13図	遺物集中区	17
第14図	西沼田遺跡出土遺物(2)	18
第15図	西沼田遺跡出土遺物(3)	19
第16図	西沼田遺跡出土遺物(4)	20

## 表 目 次

第1表	土器観察表	23
-----	-------	----

## 図版目次

- 図版 1 遺跡現況・遺構確認・D 4 - a 6 出土状況(1)
- 図版 2 D 4 - a 6 出土状況(2)・(3)・(4)
- 図版 3 D 4 - a 6 出土状況(5)・モモの核出土状況・建築部材出土状況(1)
- 図版 4 建築部材出土状況(2)・土台木出土状況・炭化材出土状況
- 図版 5 遺物集中区出土状況(1)・(2)・(3)
- 図版 6 出土遺物(1)
- 図版 7 出土遺物(2)
- 図版 8 出土遺物(3)
- 図版 9 出土遺物(4)

# 第Ⅰ章 序 章

## 第1節 調査に至る経緯

西沼田遺跡は、昭和60年の山形県営三郷堰圃場整備事業の事前調査として、県教育委員会によって発掘調査が行われている。

この発掘調査で出土した土器、木製品等の遺物、掘立柱建物跡等の遺構は学術的にきわめて価値の高いものであることから、圃場整備の中止、遺跡の保存が決定された。

遺跡は昭和62年1月26日、国の史跡指定を受け、さらに前回の調査で確認された遺跡範囲約33,000m<sup>2</sup>を公有化し、保存・活用を図ることとした。

昭和63年に、西沼田遺跡の保存・整備・活用の方向性に関して、有識者によって検討が行われ、平成5年には、「西沼田遺跡整備検討委員会」が組織され、基本構想が策定された。検討委員会は年1~2度開催され、様々な答申を行っているが、特に、昭和60年度の調査で埋め戻した建築部材等、木材の遺存状況の確認、遺跡の詳細な範囲の確認、田や畑等生産遺構の確認、等が「検討委員会」から課題として提出されている。

天童市教育委員会では、これらの課題をふまえ、国庫補助を受け発掘調査を実施することとした。

平成7年度に、遺跡の広がりを詳細に確認するために、史跡指定地の周辺部の調査を実施し、本年度から3カ年事業として、指定地内の遺構・遺物等の確認を目的として調査を実施している。

## 第2節 遺跡の立地と環境

西沼田遺跡は、天童市大字矢野目3295番地に所在し、天童市街地の中心部から、西方約3キロメートルに位置している。北緯38°21'、東經140°20'、標高は約90mを測る。

山形盆地は、山形県内を縱貫する最上川中流区域にある。東部は脊梁山地である奥羽山脈、西部は出羽山地によって画されている。この盆地のやや西側を最上川が北流している。天童市は、山形盆地のほぼ中央に位置し、東は奥羽山脈、南は立谷川、北は乱川、西は最上川によって画されている。

立谷川と乱川は、それぞれ水源を東の奥羽山脈に発し、西方の最上川に流れ込む。この二つの河川は立谷川扇状地、乱川扇状地を形成している。立谷川扇状地は、南を流れる高瀬川のつくる扇状地との合成分状地であり、北半部が天童市域にはいる。乱川扇状地は、北に流れる白水川、村田野川と押切川によって形成された複合扇状地であり、半径が約11kmに及ぶ大きな扇状地で、南半部が天童市域にはいっている。この二つの扇状地の扇端部には、豊富な湧泉があり、古くから人々の生活と密接な関わりを持っている。

最上川に接し、立谷川と乱川の両扇状地に囲まれた、天童市西域平野部の三角形状の地域には、天童低

地と呼ばれる最上川によって形成された後背湿地が広がっている。西沼田遺跡は、この天童低地にあって、立谷川扇状地の北側前縁部と乱川扇状地の南側前縁部に挟まれた場所に位置している。乱川扇状地の扇端部に沿って東西方向から北西方向に弧を描くように、倉津川は迂回している。また、本遺跡の南東方向から北西方向にかけて旧前田川の河道が確認されている。本遺跡はこれら倉津川及び旧前田川によって形成された自然堤防の微高地に立地していると考えられる。

遺跡周辺の地形は、沖積平野の特徴をよく示し平坦であるが、東から西に低く、また南から北に低い傾斜を示している。

本遺跡周辺の土壤は黒泥土壤が主体であり、一体は広い範囲において水田耕作の土地利用が図られている。地層は、シルト及び粘土の土質によって形成されているが、その基盤は、第4紀完新世の個体結構堆積物である疊及び砂の層から成り立っている。遺跡周辺には、縄文時代から中世にかけての遺跡が数多く分布しており、人々の生活や生産に深い関わりを持ってきた。このように、西沼田遺跡は人々の暮らしを支える地理的環境が構わった遺跡であるといえよう。

### 第3節 周辺遺跡と歴史的環境

乱川・立谷川扇状地の扇端部から後背湿地にかけては、水量が豊富かつ水質の良好な湧水地が多く所在する。大清水、長清水、高野坊清水等の名で呼ばれるこれらの湧水地の周辺では、古くから多くの人々が集落を営んできた。また、現在は残っていないが、矢野目、さらに南に位置する高瀬、清池、長岡等にも湧水地が広く分布していたことが明治時代の地籍図などから窺われる。

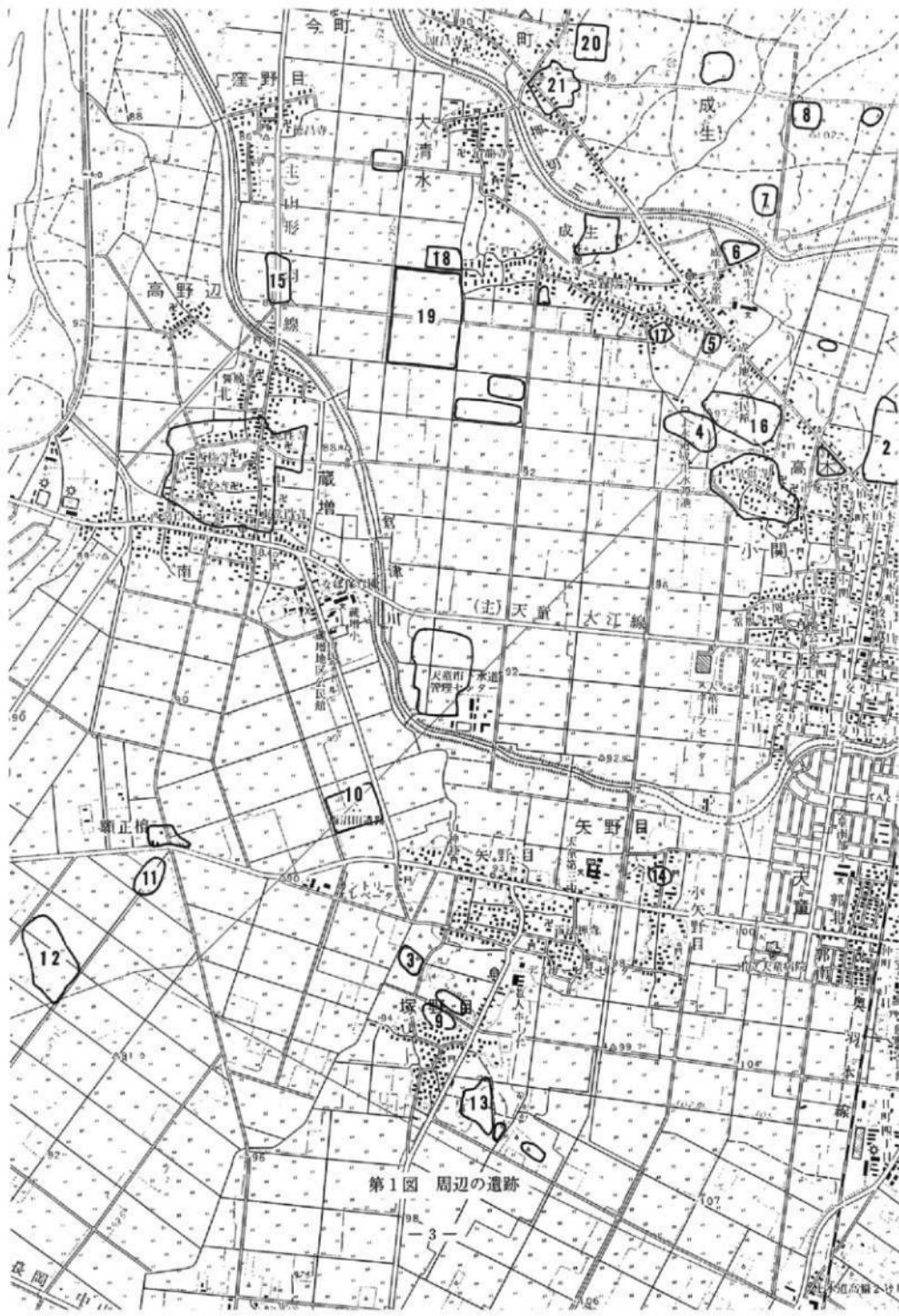
天童市では、これまで大規模な発掘調査を行っていないため、詳細の不明な遺跡が多いが、これまでに実施されたいいくつかの発掘調査の成果と表探資料をもとに、周辺遺跡を概観しておきたい。

天童市内には旧石器時代の遺跡はまだ確認されておらず、最も古いもので縄文時代前期のものである。この時代の遺跡は、市内東側の山際に沿って確認されている。扇状地の扇端部に遺跡が形成され始めるのは、縄文時代の前期の後半に入つてからである。

扇状地扇端部に遺跡が形成されるのは、現在確認されているもので、前期末の柏木遺跡(2)が最も古い。その後、中期から後期前半にかけては遺跡がほとんど確認されていないが、後期後半から晩期にかけて遺跡数が増加する。

大字矢野目字沼田に所在する矢口遺跡(3)は、昭和43年に天童市教育委員会が発掘調査を実施している。トレーナによる試掘調査であることから、遺跡全体の様相は不明の部分が多いが、竪穴住居跡が3軒と土器、石器等が出土している。また、同じ矢野目地区に所在する願正塙遺跡からも少量であるが縄文土器等が出土している。

乱川扇状地の扇端部に位置する成生地区からは後期後半から晩期、弥生時代初頭にかけての遺跡が多く見つかっている。高木石田(4)、地蔵池A(5)、金谷(6)、熊野堂前(7)、瓜小屋(8)等であるが、付近には湧水地が多く分布しており、好適な環境を提供している。遺跡・遺物のほとんどが昭和36、37年頃の耕



第1図 周辺の遺跡

地整理事業によって発見・採集されたものであるが、比較的狭い領域に密集して遺跡が分布することが特徴である。

成生から矢野目にかけての扇状地扇端部では遺跡が一挙に増大する。それ以前の遺跡が、未発見のものが存在するにしても極めて少数であることから、この時期になって扇状地の開発が一挙に進んだことが想定される。

弥生時代の遺跡は、県内でも発見例が少なく、天童市も例外ではない。その数少ない中の一つが地蔵池A遺跡である。前述のように、縄文後期から晩期にかけての遺物も確認されている複合遺跡である。昭和39年に天童市教育委員会が発掘調査を行っている。炉を伴う住居跡他、変形工字文、磨消縄文等を主体とする土器が出土している。

古墳時代前半は、塚野目A遺跡(9)にみられるように、自然堤防上の微高地に立地するが、西沼田(10)、願正壇(11)、鍋田(12)等、時期が下るにつれて徐々に、西側後背湿地に移っていく傾向がみられる。願正壇遺跡は昭和58年、県教育委員会によって発掘調査が行われ、一部打ち込み柱等の遺構と、多くの遺物が出土している。主体となるのは栗団式である。鍋田遺跡は昭和40年頃の水路工事に伴って多量の木製遺物、土器等が採集されている。遺跡全体の様相は判然としないが、出土遺物から、6～7世紀の農耕集落であると推定される。

奈良・平安時代にかけては塚野目B(13)、小矢野目(14)、藏増北B(15)、高木原口(16)跡、地蔵池B(17)、的場(18)、三条(19)等、さらに低湿地への進出が進むようである。

中世にはいると、成生庄関係の遺跡が目立つ。成生庄とは、ほぼ現在の天童市にあたる地域で、藤原摂關家の庄園として遼くとも12世紀には成立したと考えられる。庄園は、その後鎌倉時代にはいると鎌倉幕府の地頭二階堂氏によって管理されることになるが、その二階堂氏が居住した場所、もしくは政府跡と考えられるのが、方1町で堀に囲まれた二階堂遺跡(20)である。二階堂遺跡の南方約200mには、平成8年度の調査で多数の墨書碑を出土した高野坊遺跡(21)が知られる。高野坊遺跡から出土した墨書碑は、時宗一向上人の27回忌に因連するもので、施主名、紀年名を持つもの、供養を記したもの等、かなり詳細な内容をもつもので、成生庄と現在天童市五日町に所在する仏向寺の来歴、中世における仏教、特に時宗の布教活動、それに伴う庶民の信仰の様相について良好な資料を提供している。

## 第Ⅱ章 調査の概要

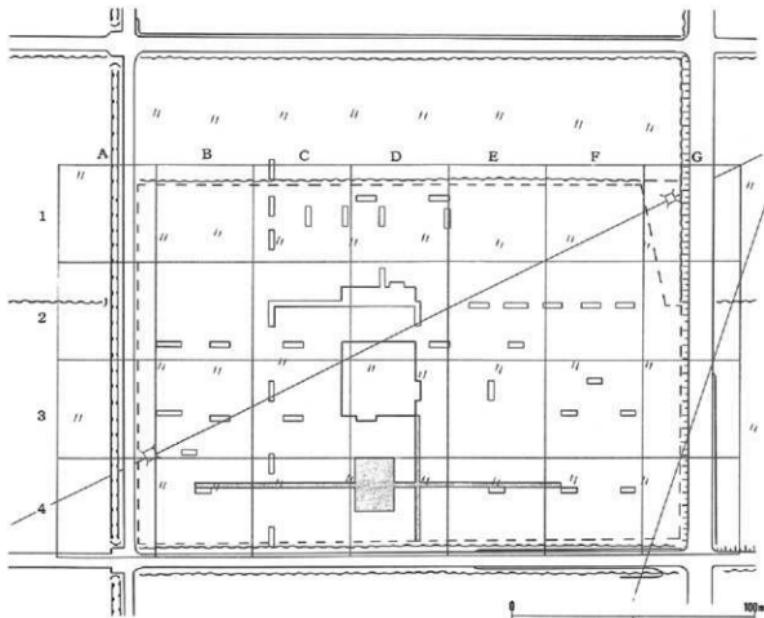
### 第1節 調査の方法と経過

発掘調査は平成9年9月12日から同年12月1日にかけて実施した。史跡指定区域南側に東西150m、南北50m、幅2mのトレンチを設け、遺構・遺物の確認を行った。

グリッド設定は、史跡指定範囲に対して40m方眼の大グリッドを設定し、東西方向にアラビア数字を、南北方向に数字を付した。また、それぞれの大グリッドに4m方眼の小グリッドを設定し、東西方向にアルファベット（小文字）、南北方向に数字を付して呼称している。

トレンチを設定した範囲は、東西方向がB 4-e 3グリッドからF 4-b 3グリッド、南北方向がD 3-g 6グリッドからD 4-g 8グリッドである。

この段階で確認された旧地形は、D 4-g 3グリッド付近が、標高が最も高く、そこから、東西方向に若干の傾斜をもって低くなっていくということであった。その比高差は、最大で約50cm程である。



第2図 発掘区設定図 (斜線部、平成9年度調査区域)

この試掘段階では、D 4 - b + c 3 グリッドで川跡から大量の建築部材等が良好な状態で確認されたことから、この部分を中心に発掘区を拡張することとした。

拡張区はトレンチから南北方向にそれぞれ10m拡張し、南北22m、東西16mの範囲で設定した。

a 6 グリッドから e 1 グリッドにかけて、北東方向に流れる、川跡が検出された。おそらく現在も付近を流れる前田川の旧河道と推定される。川跡は地下水位が高く、建築部材等、木製造物が良好な保存状態で出土している。発掘区の北東角と南西角にあたる D 4 - d 1 グリッドと D 4 - a 6 グリッドでは打ち込み柱を用いた建物跡と推定されるものが検出されたほか、ほぞ穴を有する土台木等

が出土している。D 4 - a 1 グリッドで検出された遺物集中区からは整理箱で30箱程の遺物が出土している。ここから出土した遺物は、ほぼ土師器に限られ、須恵器の出土はわずか数点であった。

a1	b1	c1	d1	e1	f1	g1	h1	i1	j1
a2	b2								
a3	e3								
a4		d4							
a5			e5						
a6				f6					
a7					g7				
a8						h8			
a9							i9		
a10								j10	

第3図 グリッド設定

## 第2節 基本層序

西沼田遺跡の基本層序は、位置により若干の差異がみられるものの、層厚約50~60cmで、大きくV層に分けられる。

第I層 表土。2.5Y 4 / 2

第II層 黒褐色粘質土層。5 Y 2 / 1

水田の耕作土である。

第III層 黒褐色土層。7.5Y 2 / 1

有機質で、若干砂粒が混入する。遺物包含層。部分的に、酸化し赤褐色化したところがみられる。

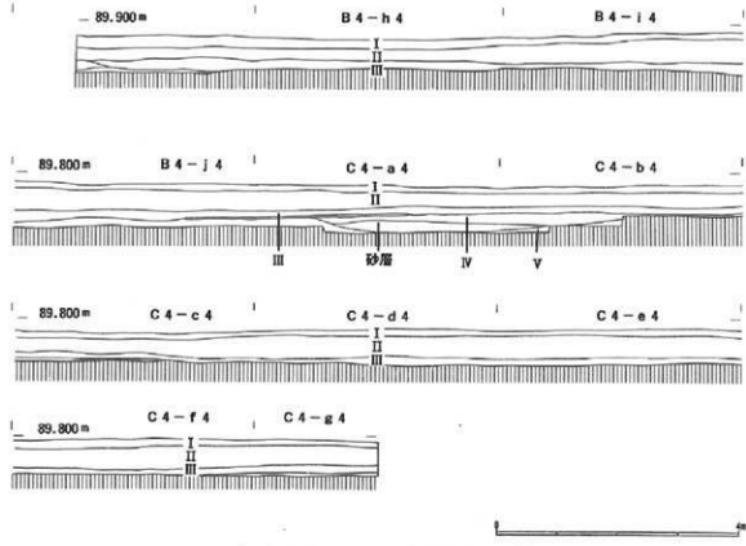
第IV層 暗褐色粘質土層。7.5Y 3 / 2

粘性が強く、かなり粒子の細かい粘質土である。

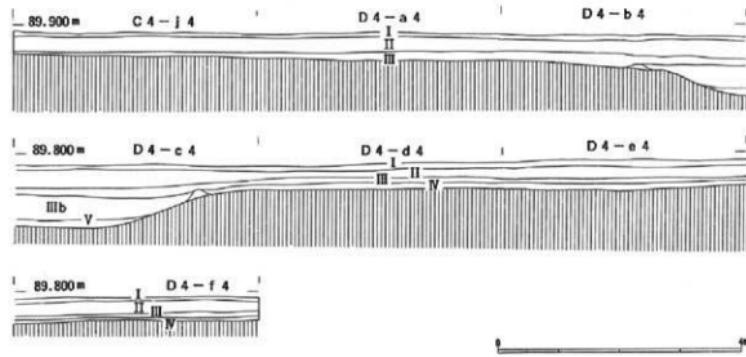
遺物包含層。

第V層 青灰褐色粘質土層。7.5Y 5 / 1

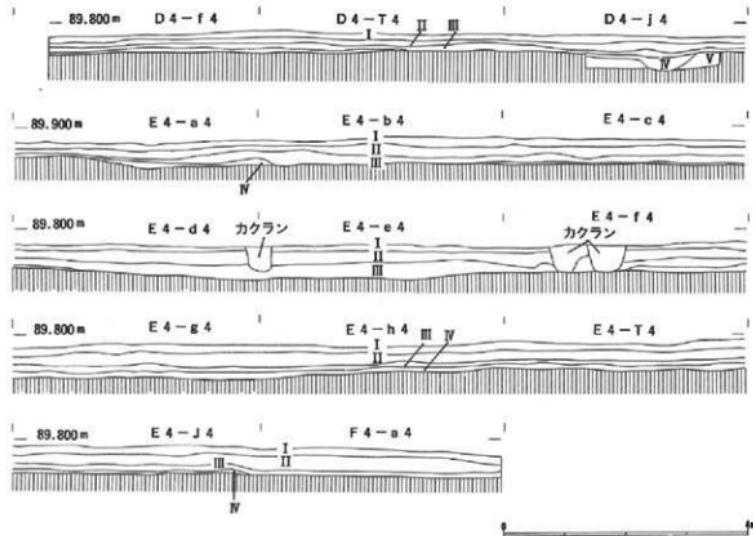
遺跡の基盤層を形成する。



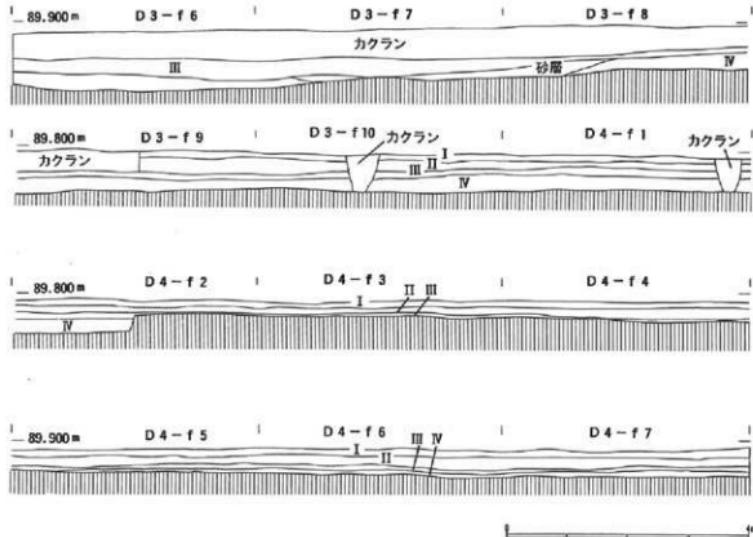
第4図 トレンチ北壁土層断面図(1)



第5図 トレンチ北壁土層断面図(2)



第6図 トレンチ北壁土層断面図(3)



第7図 トレンチ東壁土層断面図

## 第三章 遺構と遺物

### 第1節 木杭群

#### (1) 1号木杭群（第8・9・12図）

D 4-a・b 6グリッドで検出された。検出された杭は2本のみである。いずれも掘形は確認されておらず、打ち込み式のものと考えられる。その若干南側からこの柱軸と直行もしくは並行に、面取りされた板材が出土しており、これらの部材は建物の壁を構成する部材とも考えられること、また、完形もしくは半完形の土器がまとまって出土していること、植物遺存体、特にモモの核がまとまって出土していることから建物跡である可能性も考えられる。

仮に、この遺構が建物とした場合、全体の規模は不明であるが、検出されている2本の杭間は125cm、直径は、北側20cm、南側14cmであり、昭和60年度の調査で検出されている掘立柱建物跡と、柱間、柱直径ともよく似る。

周辺から出土している部材は、すべて面取りが施された板材、もしくは角材であった。また、北側の杭の北側から出土している一端が叉木となる丸太材は柱として利用された可能性も考えられる。

遺物は9点図示した。ほとんどのものが完形、もしくは半完形の状態で出土している。

1～3は土師器坏である。1は口縁部と体部の境に縫<sup>はざみ</sup>を形成しながら立ち上がり、口縁が外反する。底部は平底をなす。内・外面ともに口縁部にハケメ痕が残り、外面にヘラケズリを施す。2・3は底部が扁平な丸底をなし、内済気味に立ち上がった後、口縁部が外反する。2は内面ヘラミガキ、外面ヨコナデ、ヘラケズリを施す。3は内・外面ともにヘラミガキが施されている。いずれも内面に黒色処理が施されている。

4～9は土師器高坏である。いずれも裾部が大きく広がる。5・6・8・9は脚部が八の字状に広がり、裾部で外反する。4～6は坏部が緩やかに内湾しながら立ち上がり、口縁部で外反する。8・9は、坏部の比較的下位で口縁部が大きく外反する。4は坏部内面にヘラミガキ、脚部内外面にヘラケズリを施す。5は坏部外面にヨコナデ、脚部内面にヘラケズリを施す。6は内面ヘラミガキ、外面にヘラミガキ、ヘラケズリを施す。7～9は内面及び脚部外面にヘラミガキ、外面にヘラケズリを施し、坏部内面に黒色処理をしている。

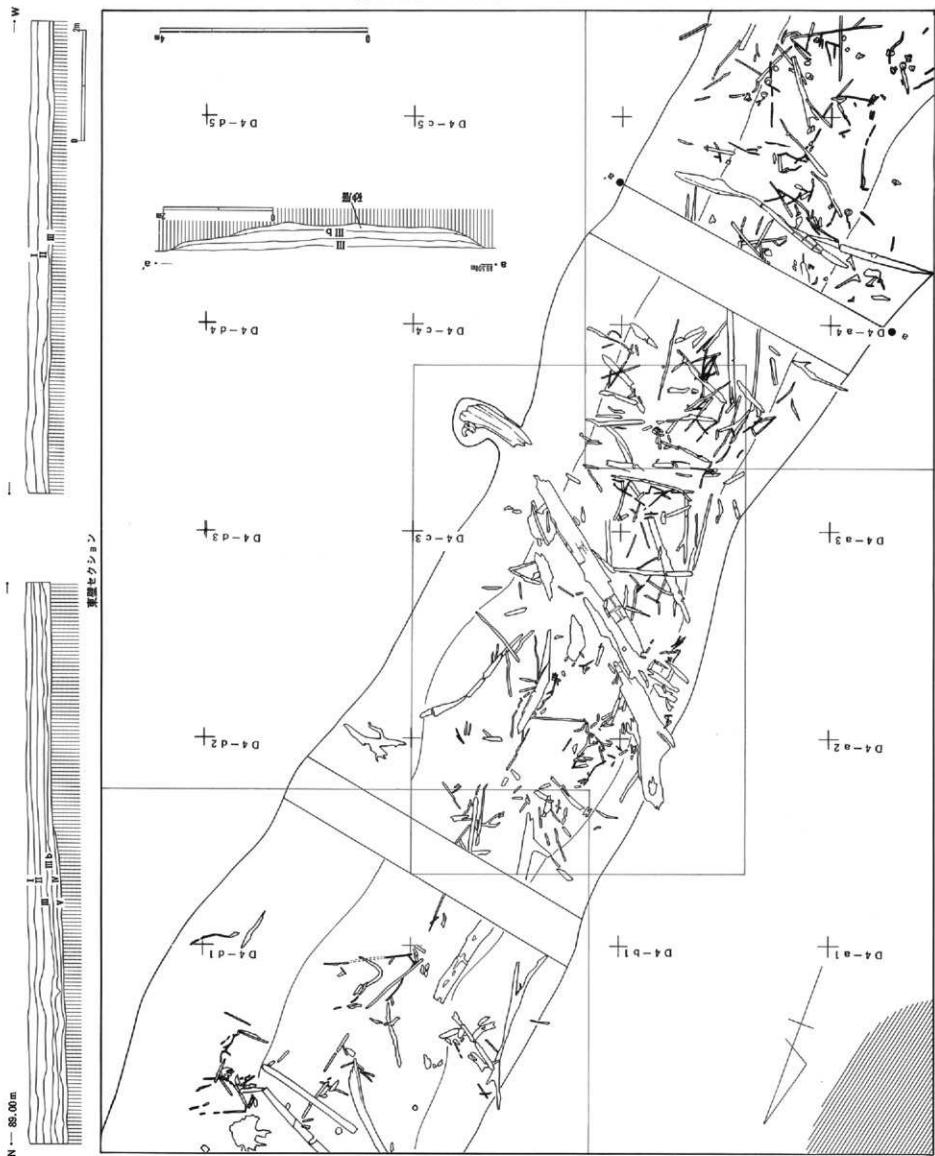
#### (2) 2号木杭群（第8・11図）

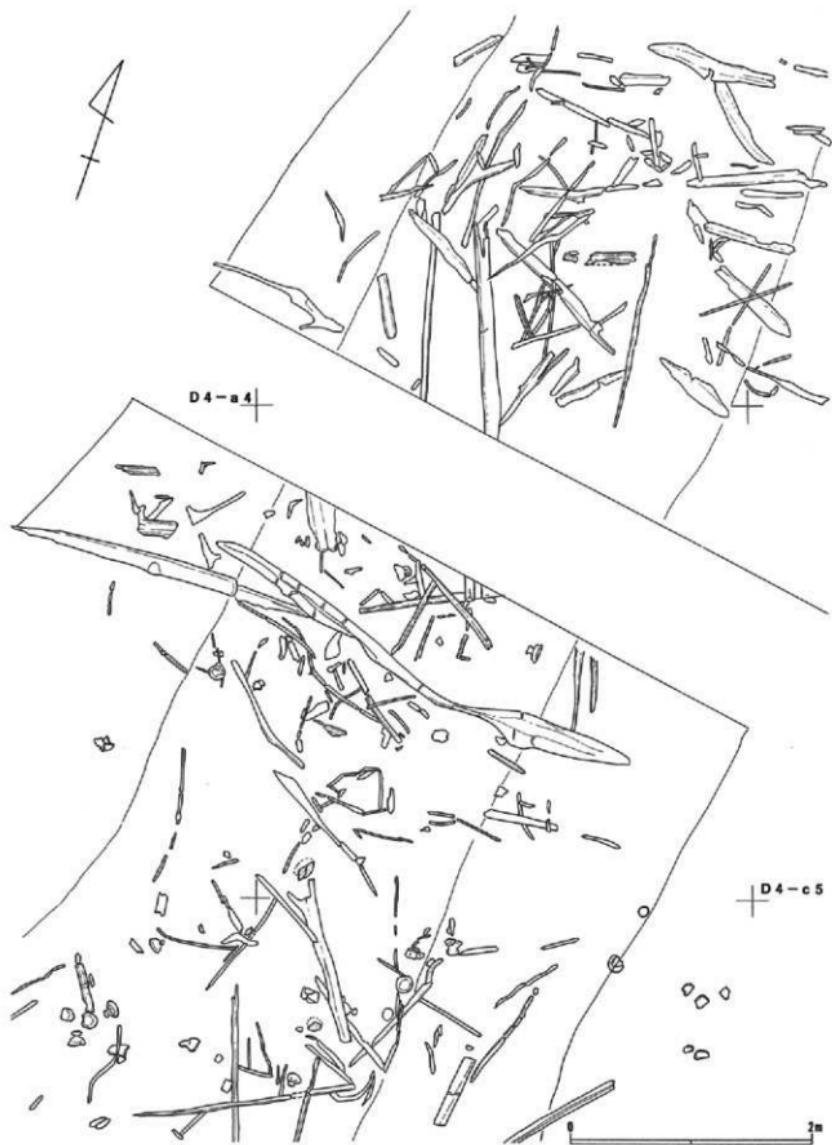
d 1グリッドで検出された。杭は若干細目で径8～10cm程度である。3本の杭が検出されているが、一直線上に並ぶことはない。杭間は西側2本間が160cm、東側2本が120cm間である。

柱の周りから、やや太めの丸太材と炭化した板材が2枚出土している。いずれも精緻な加工が施されたものである。炭化した板材は西側の全体が出土しているもので、長さ220cm、幅13～14cm、厚さ1.5cm程度である。東側のものは長さは不明であるが、幅が最大で18cm、厚さが1～2cm程度である。また、こ

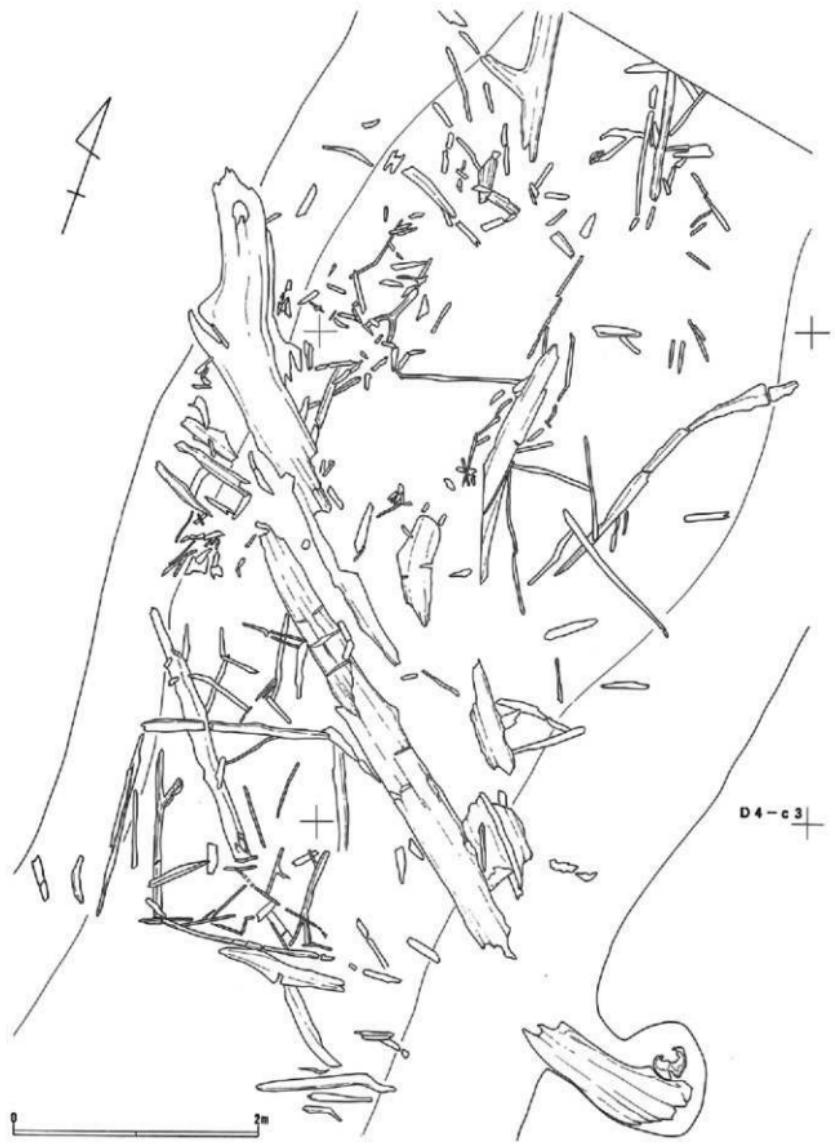


第8図 滲漏配図 [鉄鋼部(地盤物中区)]

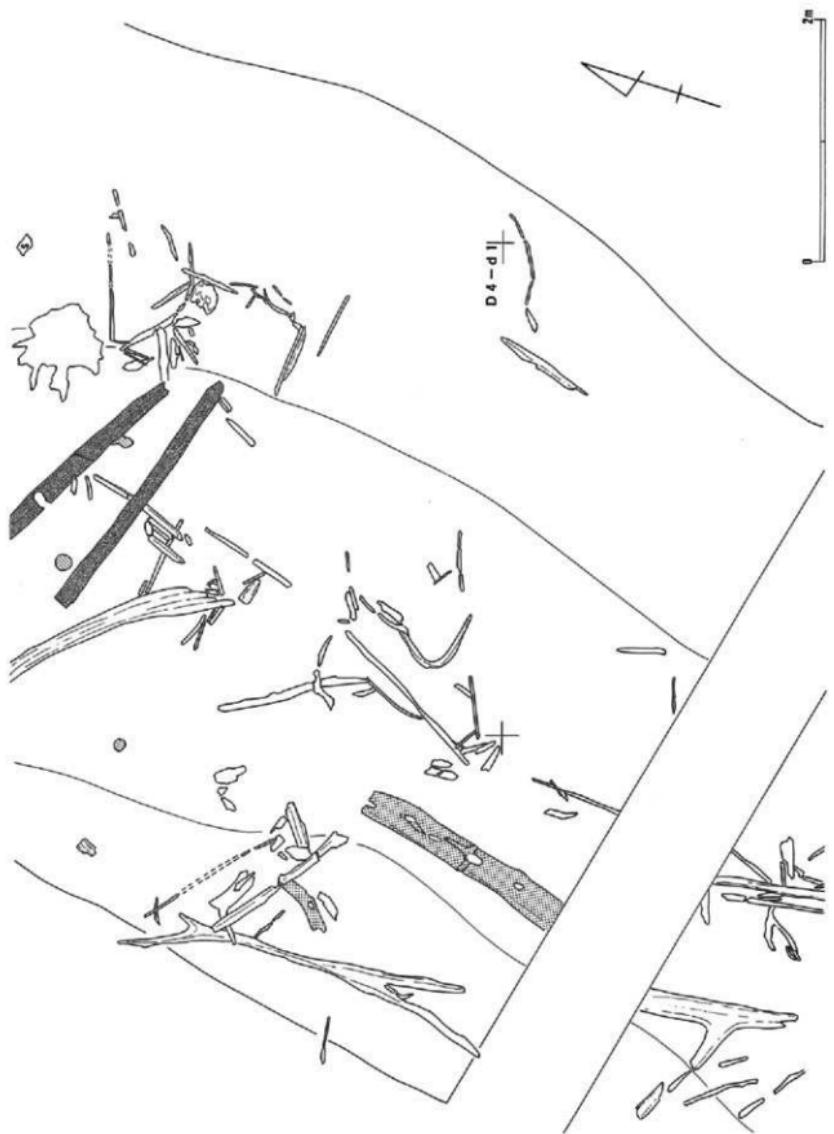




第9図 遺構実測図(1) [■打ち込み杭]



第10図 遺構実測図(2)



第11図 遺構実測図(3) [■は打ち込み杭 □は炭化材 ▨は土台木]

れら板材と直行して炭化していないやや細での板材が、組まれたような状態で検出されていることから、折り込み炭化材は意図的に焼いたものか、もしくは焼失材を再利用したものであろう。

現状では全体が判明しているとは言い難く、断定はできないが、1号打ち込み杭群同様掘立柱の建物跡であることも想定される。そうした場合、炭化した板材は、長押的な用い方がされたことも考えられる。

## 第2節 建築部材等（第8～11図）

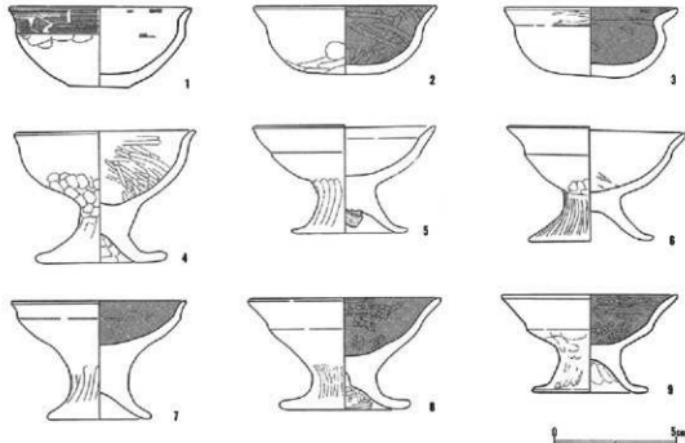
川跡からは数多くの建築部材と考えられる木材が出土している。

これらの木材は、氾濫等で水位が高まり、その水が引いたときに川跡に引き込まれたものと考えられる。それらの木材のうち、特徴的なものを列記しておく。

c 1 グリッドから土台木が1基出土している（第11図）。南側のものは、長さ180cm以上、幅25cm、厚さ20cm程の面取りされた角材に、長径10cm前後のはぞ穴を15～25cm間隔で開けたものである。

a 5 グリッドから出土している丸太材は全面に仕事の跡がみられるものである。

b 6 及びb・c 3・4 グリッドから出土している大型の木材は切り込みの跡がみられるものである。作業の途中で放棄されているようであり、加工の目的等については不明である。



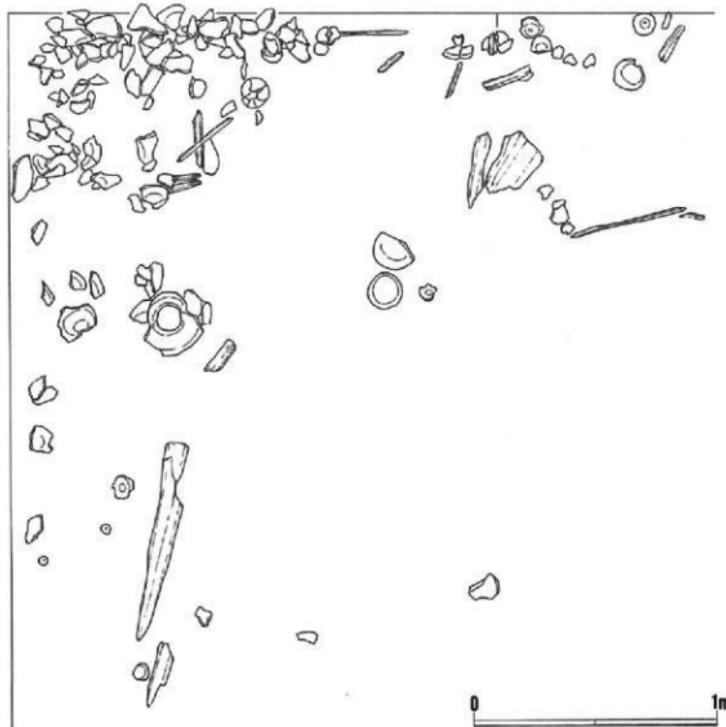
第12図 西沼田遺跡出土遺物(1)

### 第3節 遺物集中区（第13～16図）

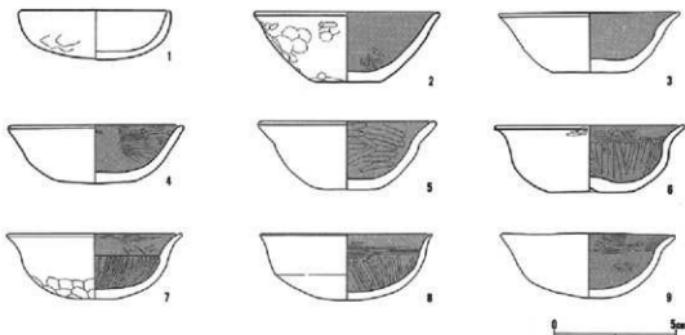
発掘区北西角、おおよそ南北300cm、東西250cmの範囲から、土器片が大量に出土している（第13図）。遺物の分布は北西側にのびると考えられる。

遺物の出土状況は、土抗等は認められず、地山の上に土器が次々に重ねて置かれたような状態であった。遺物も、完形、もしくは半完形の状態であり、使用等により欠損したものを投棄したというよりは、その場に積み重ねられたような状態で出土している。

出土遺物については、整理途上であり、また、全体を発掘したわけではないので、判明している点についてのみ述べる。今回図示したのは38点である。



第13図 遺物集中区



第14図 西沼田遺跡出土遺物(2)

1~31は土師器坏である。

1は内湾する口縁部を有し、底部が丸底をなす。外面にヘラケズリを施す。

2~6は底部が平底をなす一群である。2~4は体部から口縁にかけて外傾しながら立ち上がる。

5・6は口縁が外反する。いずれも内面にヘラミガキを施し、黒色処理を施している。

7~9は口縁が外反し、丸底をなす。8は体部に緩やかな稜をもつ。7は外面にヘラケズリ、内面にヘラミガキを施し、8・9は内面にヘラミガキを施している。いずれも内面に黒色処理を行っている。

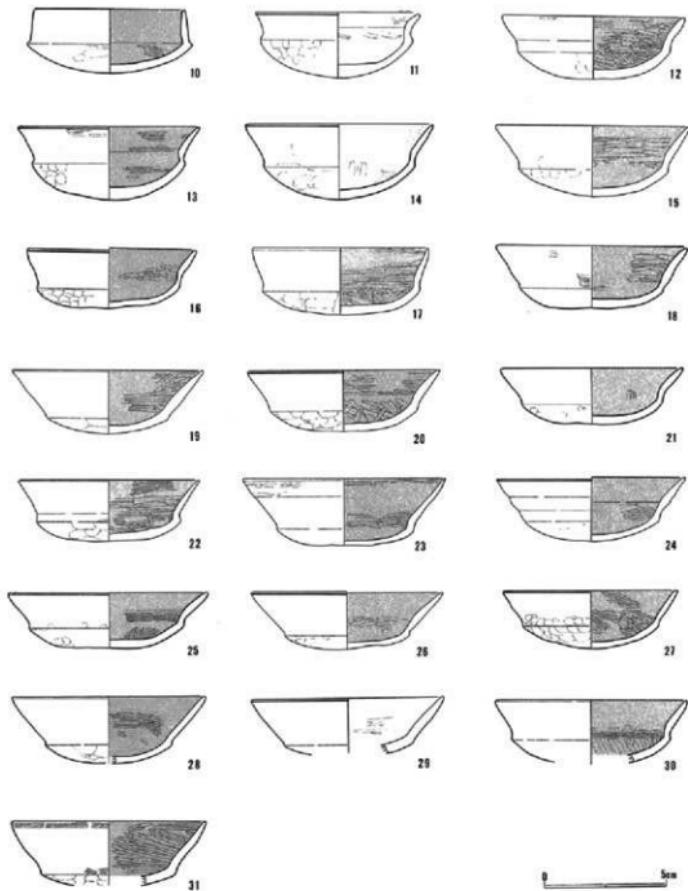
10は扁平な丸底で、頸部で強く屈曲し、口縁は直立する。外面にヨコナデ、ヘラケズリ、内面にヘラミガキを施し、内面に黒色処理を行っている。

11~15は口縁径に対して器高が高いものである。頸部に稜を有し、口縁が外反しながら立ち上がる。底部は比較的緩やかな丸底を呈する。いずれも外面にヘラケズリ、内面にヘラミガキを施す。12・13・15は内面に黒色処理を施す。

16・17は頸部に稜を有し、外反気味に立ち上がった後、口縁が内湾する。底部は扁平な丸底を呈する。外面にヘラケズリ、内面にヘラミガキを施し、内面に黒色処理を行っている。

18~31は体部下位に明確な稜を有し、口縁が外反しながら立ち上がる一群である。底部を遺存するもののうち、18~23、25~28は扁平な丸底の底部を有する。24はその他のものと比較して丸みがある。調整は、いずれも外面にヘラケズリ、内面にヘラミガキを施している。29を除き内面に黒色処理を施している。

32~34は高坏である。32は体部下半に稜を有し、外反しながら立ち上がる坏部と、大きく八字形に広がる脚部と、外反する裾部を有する。外面にヘラミガキを施す。33も32同様の坏部を有する。裾部が広がり、そこから直立に近く坏部に向かって立ち上がる脚部を有する。内・外面ともにヘラミガキを施し、内面には黒色処理を行っている。34は高坏の脚である。形態的には大きく八字形に広がる32とやや直線的

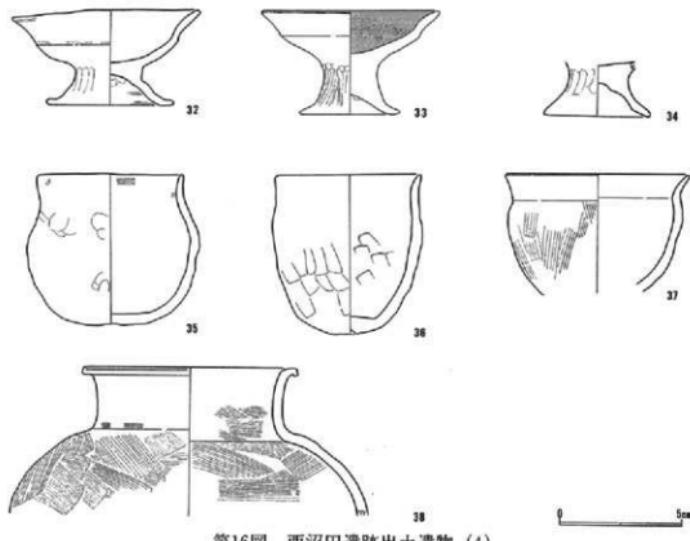


第15図 西沼田遺跡出土遺物(3)

に立ち上がる33の中間的な形態をもつ。坏部内面に黒色処理を行う。

35～37は壺である。35は扁平な丸底の底部を有し、口縁が若干外反しながら、直線的に立ち上がる。内面にハケメ痕が残り、外面にはヘラケズリを施している。36は内・外面ともにヘラケズリを施す。37は頸部内・外面に稜を有し、外湾しながら口縁部が立ち上がる。内面にはハケメ痕がみられる。

38は甕である。胴部は扁円形を呈すると推定される。口縁は直立気味に立ち上がり、口唇は外反し、折



第16図 西沼田遺跡出土遺物 (4)

り返し状の有段口縁となる。内・外面ともにハケメ痕が残る。

## 第IV章　まとめ

### 第1節　遺構について

掘立柱建物跡と推定されるものが2棟検出された。いずれも、打ち込み式の杭が2、もしくは3本確認されたのみで、柱間、周辺から出土している建築部材、遺物等から推定したものであり、全体のプラン等は明らかではない。前回、昭和60年度の発掘調査によって検出された建物跡と比較すると、柱間、柱直径等共通する点がみられる。若干の相違点として、周辺から出土している部材が挙げられる。前回の調査では、柱に限らず、柱筋と並行して出土している部材のはほとんどが自然木であったのに対して、今回出土のものは、そのほとんどに加工の痕がみられた。その多くは角材として精緻な面取りがなされていた。

上記の例のほか、D 4-c 2グリッドで検出されたほぞ穴を有する土台木の存在、川跡から出土している部材のはほとんどに加工の跡がみられ、そのほとんどが板材、もしくは角材であることなどから、前回確認されている建物群とは様相を異にする点が多い。

これらの部材から想定される建物は、前回確認されている、自然木を主体とした建物に比較して、より高度な建築物であったことが想定される。

上記の点から、これらの建築物は、前回出土した建物で生活していた人々に比較して階層の高い人々が住まいしたものか、あるいはムラの公共的な施設であったことが考えられる。

### 第2節　遺物について

整理箱にして約50箱の遺物が出土している。若干の植物遺存体を除くと、ほぼ土器に限られ、そのうち須恵器数点を除きすべて土師器である。

a 1グリッドにおいて遺物が集中して出土している。出土範囲は北西側にのびるものと考えられ、その一角を検出し得たにすぎないが、それでも30箱ほどの遺物が出土している。器種別の組成は、個体数でみると圧倒的に壺が多く、その他の器種はごく少数である。次に組成を占めるのが手づくね土器であり、壺、甕等は破片の点数が多いものの、個体数はそれほど多くはないと考えられる。

壺は、その多くが同様の特徴を持つもので占められる。体部下半に明確な稜をもつ、口縁部が外反しながら立ち上がる、内面にヘラミガキが施され、黒色処理が行われる、等の共通した特徴を有する。こうした特徴を有する土器は、ほぼ栗圓式に比定されるものと考えられる。また、若干その特徴を異なるものについては、栗圓式のバリエーションとして把握されるものか、あるいは時期差をもつものとするか、今後検討が必要であろう。

1号木杭群に共伴すると考えられる土器群は、高壺を主体とする。

坏部内面に黒色処理を施したものと、そうでないものの二者がみられる。器形も黒色処理を施したもののが、体部に明瞭な稜を有し、口縁が外反しながら立ち上がるのに対して、黒色処理が施されていないものは、前者に比較して明瞭な稜を有しないという点で異なる。

坏は、すべて黒色処理が施されている。器形は平底か、あるいは扁平な丸底を呈し、体部上位で短く外反しながら立ち上がる。遺物集中区で出土している、第14図5～7の土器等と、比較的その特徴を同じくする。また、遺物集中区で主体を占めた、体部下位に稜を有し、口縁が大きく外反しながら立ち上がる一群はみられない。

主に坏から観察される、1号木杭群と遺物集中区に伴う土器群との差は、遺構の内容の違いにもとづくものか、あるいは時期差をもつものとして把握されるのか、今後検討が必要であろう。

#### 参考文献

- 氏家和典1957「東北土師器の型式分類とその編年」歴史第14輯  
伊藤延男他編1977『文化財講座 日本の建築1 古代I』第一法規  
天童市史編さん委員会1978『天童市史別巻上考古・地理篇』天童市  
名和達朗他1985『西沼田遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第101集  
阿部明彦1987『三軒屋物見台遺跡発掘調査報告書(2)』  
山形県埋蔵文化財調査報告書第107集  
天童市教育委員会1994『西沼田遺跡発掘調査概報』  
天童市埋蔵文化財調査報告書第10集  
伊藤邦弘1994「南原遺跡」「南原遺跡・堂の下遺跡・飯塚遺跡発掘調査報告書」  
山形県埋蔵文化財センター調査報告書第2集  
天童市教育委員会1995『西沼田遺跡関連発掘調査報告書』  
天童市埋蔵文化財調査報告書第12集

第1表 土器觀察表

擇因NO.	種別	器種	口径 [mm]	底徑 [mm]	器高 [mm]	胎土	燒成	色調	遺存度 [%]
12-1	土師器	坏	150	50	66	砂粒少	稍不良	内面：黄褐色 外面：黄褐色	100
12-2	土師器	坏	150	-	56	砂粒少	良好	内面：黑色 外面：黄褐色	90
12-3	土師器	坏	142	-	56	砂粒少	稍不良	内面：黑色 外面：黄褐色～赤褐色	90
12-4	土師器	高坏	149	108	108	砂粒少	稍不良	内面：赤褐色 外面：赤褐色	90
12-5	土師器	高坏	148	95	88	砂粒多	不良	内面：赤褐色 外面：赤褐色	85
12-6	土師器	高坏	148	102	94	砂粒少	稍良好	内面：赤褐色 外面：黄褐色	90
12-7	土師器	高坏	142	86	96	砂粒多	不良	内面：黑色 外面：黄褐色	80
12-8	土師器	高坏	158	108	91	砂粒多	稍良好	内面：黑色 外面：赤褐色	70
12-9	土師器	高坏	145	95	80	砂粒少	良好	内面：黑色 外面：黑色～黄褐色	70
14-1	土師器	坏	125	-	41	砂粒多	良好	内面：黄褐色 外面：黑色～黄褐色	90
14-2	土師器	坏	154	54	57	砂粒稍多	稍不良	内面：黑色 外面：灰褐色	60
14-3	土師器	坏	148	60	49	砂粒多	不良	内面：黑色 外面：黑色～黄褐色	90
14-4	土師器	坏	144	-	47	砂粒多	良好	内面：黑色 外面：黄褐色	50
14-5	土師器	坏	146	50	51	砂粒多	稍不良	内面：黑色 外面：黄褐色	80
14-6	土師器	坏	155	67	54	砂粒少	稍不良	内面：黑色 外面：黄褐色	40
14-7	土師器	坏	144	-	54	砂粒少	良好	内面：黑色 外面：黄褐色	80
14-8	土師器	坏	142	-	55	砂粒少	稍不良	内面：黑色 外面：黄褐色	80
14-9	土師器	坏	144	-	53	砂粒多	稍不良	内面：黑色 外面：黄褐色	80
15-10	土師器	坏	122	-	51	砂粒少	良好	内面：黑色 外面：灰褐色	70
15-11	土師器	坏	-	-	-	砂粒稍多	良好	内面：黑色～黄褐色 外面：黑色～黄褐色	80
15-12	土師器	坏	152	124	51	砂粒少	良好	内面：黑色 外面：黄褐色	80
15-13	土師器	坏	149	126	60	砂粒少	良好	内面：黑色 外面：黄褐色	70
15-14	土師器	坏	154	-	61	砂粒多	稍不良	内面：黄褐色 外面：黄褐色	60
15-15	土師器	坏	157	112	58	砂粒少	良好	内面：黑色 外面：黄褐色～赤褐色	80

挿図No.	種別	器種	口径 [mm]	底径 [mm]	器高 [mm]	胎土	焼成	色調	遺存度 [%]
15-16	土師器	坏	136	116	47	砂粒少	良 好	内面：黑色 外面：黄褐色	80
15-17	土師器	坏	145	129	54	砂粒少	良 好	内面：黑色 外面：灰褐色～黄褐色	100
15-18	土師器	坏	200	116	50	砂粒少	良 好	内面：黑色 外面：黑色～黄褐色	50
15-19	土師器	坏	156	98	53	砂粒少	良 好	内面：黑色 外面：黑色～黄褐色	60
15-20	土師器	坏	158	120	50	砂粒少	良 好	内面：黑色 外面：黑色～黄褐色	80
15-21	土師器	坏	150	115	46	砂粒少	良 好	内面：黑色 外面：黄褐色	50
15-22	土師器	坏	148	118	49	砂粒少	良 好	内面：黑色 外面：黑色～黄褐色	60
15-23	土師器	坏	166	112	54	砂粒少	良 好	内面：黑色 外面：黑色～黄褐色	70
15-24	土師器	坏	154	111	51	砂粒少	良 好	内面：黑色 外面：赤褐色～黄褐色	70
15-25	土師器	坏	164	-	45	砂粒少	良 好	内面：黑色 外面：灰褐色	60
15-26	土師器	坏	156	102	48	砂粒少	良 好	内面：黑色 外面：黑色～黄褐色	70
15-27	土師器	坏	144	-	48	砂粒少	良 好	内面：黑色 外面：黑色～黄褐色	80
15-28	土師器	坏	158	-	-	砂粒少	稍不良	内面：黑色 外面：灰褐色	30
15-29	土師器	坏	158	-	-	砂粒少	稍不良	内面：黑色～赤褐色 外面：赤褐色	70
15-30	土師器	坏	158	-	-	砂粒少	良 好	内面：黑色 外面：黄褐色	30
15-31	土師器	坏	160	-	-	砂粒少	良 好	内面：黑色 脚部に赤色顔料あり。 外面：黑色～黄褐色	30
16-32	土師器	高坏	154	104	78	砂粒少	良 好	内面：赤褐色～灰褐色 外面：赤褐色～灰褐色	60
16-33	土師器	高坏	146	82	85	砂粒少	稍良好	内面：黑色 外面：黄褐色	70
16-34	土師器	高坏	-	88	-	砂粒多	良 好	内面：黑色 外面：黄褐色	30
16-35	土師器	壺	120	-	123	砂粒多	稍不良	内面：赤褐色～黄褐色 外面：黑色～黄褐色	80
16-36	土師器	壺	120	-	131	砂粒少	稍不良	内面：赤褐色 外面：黑色～赤褐色	60
16-37	土師器	壺	151	-	-	砂粒多	良好	内面：黄褐色～灰褐色 外面：黄褐色～灰褐色	70
16-38	土師器	甕	178	-	-	砂粒多	稍不良	内面：灰褐色 外面：赤褐色	10

# 写 真 図 版





遺跡現況



遺構確認



D 4-a 6 出土狀況(1)





D 4-a6 出土状况(2)



D 4-a6 出土状况(3)



D 4-a6 出土状况(4)





D 4-a 6 出土状況(5)



モモの核出土状況



建築部材出土状況(1)





建築部材出土狀況(2)



土台木出土狀況



炭化材等出土狀況





遺物集中区出土狀況(1)



遺物集中区出土狀況(2)



遺物集中区出土狀況(3)





12-1



12-4



12-2



12-5



12-3



12-6



12-7



12-8



12-9



图版 7



14-1



14-2



14-3



14-4



14-5



14-7



14-8



14-9



15-11



15-12



15-13



15-15



15-16



15-17



图版 8



15-18



15-19



15-20



15-21



15-22



15-23



15-24



15-25



15-26



15-28



15-29



15-30



15-31



圖版 9



16-32



16-33



16-35



16-37



## 報告書抄録

ふりがな	てんどうしにしみまたいせき
書名	天童市西沼田遺跡第Ⅰ次発掘調査概報
副書名	
卷次	
シリーズ名	天童市埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	第20集
編著者名	押野一貴
編集機関	天童市教育委員会
所在地	〒994-8510 天童市老野森一丁目1番1号
発行年月日	平成10年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コ ー ド		北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
西沼田遺跡	天童市大字 矢野目字沼 田地内	6210	114	38° 21' 24"	140° 20' 44"	19970912～ 19971201	720m <sup>2</sup>	史跡の保存・整備計画に伴う 発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西沼田遺跡	集落跡	古墳時代後期	掘立柱建物跡 遺物集中区	2 1	土師器、須恵器、 石器、建築部材



天童市埋蔵文化財発掘調査報告書第20集  
天童市西沼田遺跡第1次発掘調査概報

---

平成10年3月31日

編集 天童市教育委員会

発行 天童市教育委員会

天童市老野森一丁目1番1号

TEL 023-654-1111㈹

印刷 御昭報社印刷

東根市大字若木七窪5555-8

---

